

【国語】

【1】以下の文章を読んで、各問いに答えなさい。

新人記者たちや、記者志望の学生にその志を(あ)たずねると、「声なき声を伝えたい」「社会課題の解決に役立ちたい」と言う。世論に訴え、社会をよくしたい。そんな志はジャーナリズムの原点である。

実際、これまで多くの報道が世論に連動し、社会を動かした。古くは危険な売血を献血制度に転換させた「黄色い血」キャンペーン（読売新聞）、米国でベトナム戦争批判の声を高めたペンタゴン文書（ニューヨーク・タイムズ）や戦死者の顔写真報道（ライフ）、近年では裁判所の記録保存に対する姿勢の改善につながった憲法訴訟の記録廃棄（共同通信）・少年事件の記録廃棄（神戸新聞）の報道、さらに今も大揺れが続くフジテレビ問題の報道（女性セブン、週刊文春）もある。

報道が世論を誤った方向に向かわせたことへの批判も大変多い。1994年の松本サリン事件報道では各社が第一通報者の河野義行を疑う警察の見立てを(A)無批判に報じたことは日本報道史の(ア)汚点といえよう。ミソジニーや、少数者に対するステレオタイプを(イ)増幅するとの報道・メディア批判も深刻である。

記者や編集者は、メディアが世論に与える影響力を考え、責任ある報道に(ウ)努めるべきではあるが、ネット時代に入って久しい今日、その影響力には(い)かげりが出ている。いや【 I 】、そこまでの力だったのか。

マスメディアが世論を動かす強い力を持つとの考えは「強力効果論」と呼ばれ100年ほど前に盛んに論じられた。だがその後、実は読者・視聴者がマスメディア情報を受け入れるにも周囲の人々の影響が大きく、その情報にもともと共感しているかどうかもカギとなり、「自分は報道に踊らされないが他人は踊らされるだろう」と疑う気持ちがマスメディアの影響を大きく感じさせる効果もあることから、マスメディアの実際の効果はそこまでではないという「限定効果論」が(う)じっしょう研究の中でより説得力ある考え方として論じられるようになった。

【 II 】マスメディアの力が本領を(え)はっきするのは「こういう問題があり、大切だ」という「アジェンダ・セッティング（課題設定）」だと指摘される。報道は例えば「選択的夫婦別姓制度反対派」から「同賛成派」へと森の木々をなぎ倒すように変えるものではなく、あるいは袴田巖への視線を「殺人犯」から「冤罪被害者」へと一斉に切り替えさせることでもなく、夫婦別姓問題や袴田事件に世の中の注目を集め、議論を起こすところにあるというわけだ。

「こんな問題がある」と知ってもらえば市民の議論が始まってくれる—そんな記者の期待は、しかし近年、世論に裏切られるようになった。

たとえば2017年に自ら記者会見を開くなどして性暴力被害を訴えた伊藤詩織には、ネット上で主に匿名での激しい誹謗中傷が起きた。筆者は共同通信時代、入管施設に収容された外国人への非(お)じんどう的取り扱いを次々に(エ)暴露する報道のデスク（編集者）を担当したが、ネット上で外国人バッシング的な対応が少なくなかったことを記憶している。最近では埼玉県川口市のクルド人に対するネットと現実社会での迫害的行為を取り上げたNHK「E TV特集 フェイクとリアル 川口 クルド人 真相」にも、反発が多数ネット投稿された。

そして2024年の兵庫県知事をめぐる問題とその後の知事選の報道である。当初のスクandal報道時、テレビの情報番組は「パワハラ」「おねだり」のワーディングで視聴者の関心を集めたが、失職と出直し知事選挙になって状況は一変する。「NHKから国民を守る党」立花孝志がネット動画で「報道は偏向、真実は異なる」との趣旨の主張をして注目を得ると、それまでのスクandal報道が一方的、ブーム的だった面も確かにあり、「斎藤さんはマスコミ被害者」になる。筆者が選挙直後に行った有権者調査では、ニュースへの信頼が低いグループほど斎藤に投票が高まる関係が計測できた。田中辰雄（横浜商科大）が投開票日直前に実施した調査では、斎藤支持者でこの問題についてのマスコミ報道は信用できないという立場を取った人の割合は86.4%にのぼったという。そうした人々に、報道は「大きな力」どころか何の影響力も持たない可能性がある。

不信の背景には、一時期斎藤のスキャンダルを盛んに報じていたテレビや新聞が、選挙になると肝心の情報を控える理由に挙げるのは①選挙戦への影響を避け中立を保つ②ネットでは、斎藤の問題を告発した同県元局長の人格を疑わせるような「私的情報」が話題となったが、事実と反したり、本筋に全く関係なかったりの内容で、元局長のプライバシーを考えそれについての報道そのものを控える—という判断だ。

日本の報道界では80年代以後、報道被害への反省から、報道対象を慮って「伝えない」選択は重視されてきた。それも大切であろう。だが本来、より良いジャーナリズムは「よりしっかり伝える」ことで市民に奉仕し、民主主義を機能させる(オ)営みだ。「ジャーナリズムの最大の目的は、市民が自由になり自治ができるよう、必要な情報を提供すること」(コバッチほか著、拙訳『ジャーナリストの条件』)であり、それゆえ取材対象からの独立を厳に保つ。よりよく、より豊富に伝えて世論を深めるのが本来の報道倫理なのに、誰か、何かへの配慮の名の下に情報伝達を避けるのはときに安直、ときに事なかれ主義であり、オーウェル『一九八四年』が描く独裁政治のスローガン「無知は力」さえ想起させる。【Ⅲ】報道機関が門番係として情報を実際に止められた時代はとうに終わり、情報生態系のごく一部でしかなくなった報道メディアが「伝えない」効力は多くの場合乏しい。

今、人々はSNS情報や動画コンテンツを凝視する。しかし、その信頼度に深刻な不安が広がっていることもまた、統計には表れている。情報過多時代、世論も揺れ動き、悩み、苛立っている。そこに、マスメディアが報道倫理の名の下に「伝えない」「情報を抑制する」姿勢を取れば、市民の情報環境はさらに荒れるだろう。

報道と世論のより良い関係に必要なのは、基本に戻り、市民が真に必要なとする情報を(B)戦闘的に掘り起こし報じる姿勢である。情報過多というその内実は、見た目だけ「報道っぽい」コンテンツ、極端だが事実の裏付けに乏しい言説、一人語りのストーリーや、取材を経ないオピニオンの洪水に過ぎないように思われる。このとき、(C)ジャーナリズムの鉄則を踏まえ、取材を尽くして事実をこたわり、誰からも独立し、市民の自由と自治に貢献する仕事、例えば不正を暴く調査報道、例えば真相解明の深掘りニュースが、情報過多の空疎を埋め、市民と世論に奉仕するはずである。

<出典>澤康臣「情報過多時代の世論と報道」法学セミナー2025年8・9月号(日本評論社)

(問1) 下線部(あ)～(お)のひらがなを漢字に直しなさい。

(問2) 下線部(ア)～(オ)の漢字の読みをひらがなで答えなさい。

(問3) 空欄【Ⅰ】～【Ⅲ】にあてはまる語を以下の①～③の中から選び、それぞれ、記号で答えなさい。

① そもそも ② まして ③ むしろ

(問4) 下線部(A)について、「無批判に」とは、どういうことか。具体的に説明しなさい。

(問5) 下線部(B)について、「戦闘的に」とは、どういうことか。具体的に説明しなさい。

(問6) 下線部(C)について、筆者の考える「ジャーナリズムの鉄則」の内容を具体的に説明しなさい。

(問7) 本文の内容全体を100字以内で要約しなさい。

【2】以下の各問いに答えなさい。

(問1) 故事成語「羊頭狗肉」の意味として適切なものを選びなさい。

- (ア) 見せかけだけ飾って、ごまかすこと。
- (イ) とてもたくさんの量を食べること。

(問2) 「^{げき}檄を飛ばす」の本来的な意味として適切なものは(ア)・(イ)のどちらであるか。
記号で答えなさい。

- (ア) 自分の主張や考えを広く人々に知らせて、同意を求めること。
- (イ) 元氣のない者に刺激を与え、活気づけること。

(問3) 次の①～③の(ア)・(イ)のうち、本来のことわざ・慣用句はどちらであるか。
それぞれ、記号で答えなさい。

- ① (ア) 心血を注ぐ (イ) 心血を傾ける
- ② (ア) 口を濁す (イ) 言葉を濁す
- ③ (ア) 反感をくろう (イ) 反感を買う

【2】以下の各問いに答えなさい。

(問1) 故事成語「羊頭狗肉」の意味として適切なものを選びなさい。

- (ア) 見せかけだけ飾って、ごまかすこと。
- (イ) とてもたくさんの量を食べること。

(問2) 「^{げき}激を飛ばす」の本来的な意味として適切なものは(ア)・(イ)のどちらであるか。記号で答えなさい。

- (ア) 自分の主張や考えを広く人々に知らせて、同意を求めること。
- (イ) 元氣のない者に刺激を与え、活気づけること。

(問3) 次の①～③の(ア)・(イ)のうち、本来のことわざ・慣用句はどちらであるか。それぞれ、記号で答えなさい。

- ① (ア) 心血を注ぐ (イ) 心血を傾ける
- ② (ア) 口を濁す (イ) 言葉を濁す
- ③ (ア) 反感をくろう (イ) 反感を買う